

2018年3月期 決算説明資料

2018年5月31日

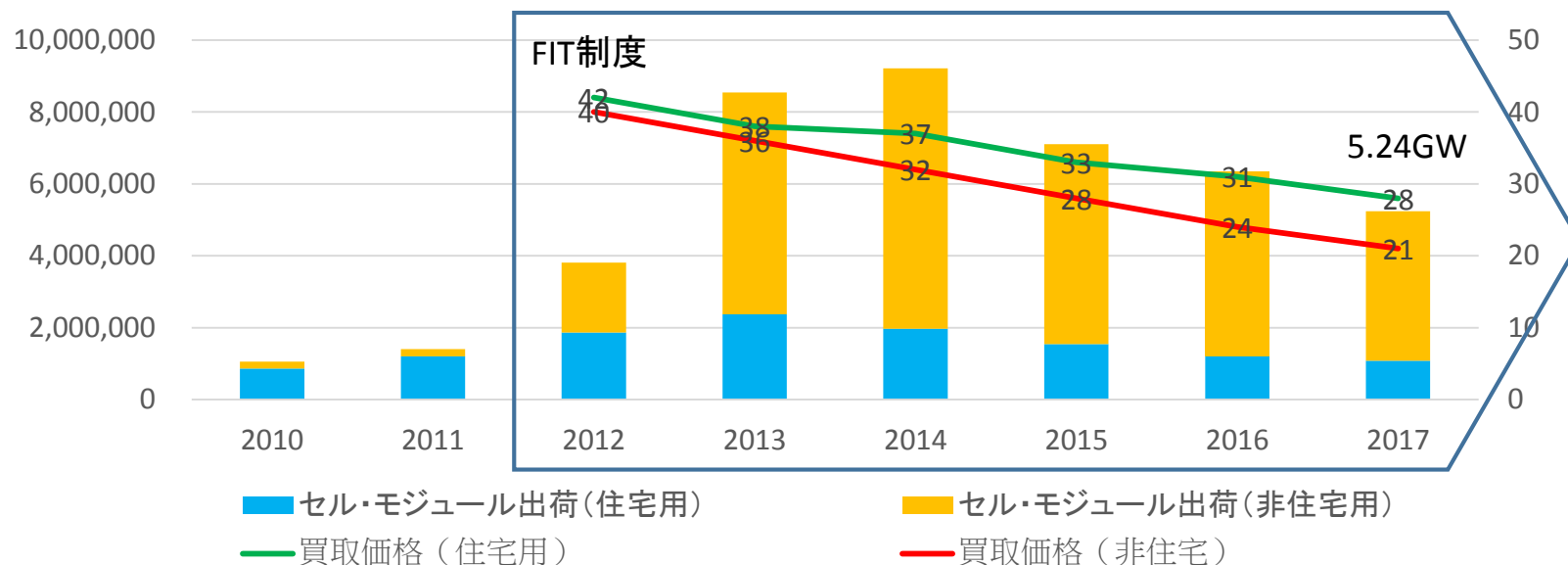
田淵電機株式会社（証券コード：6624）

2018年3月期 業績の概要

- **（電源機器・エネルギーソリューション事業）**
国内太陽光発電市場は、FIT改正施行後の認定手続きの遅れも徐々に解消されつつあるが、前年からマイナスが続く
北米市場展開については、蓄電システムがハワイ・カリフォルニア州およびプエルトリコ等で販売が開始されたが目標未達に終わった
- **（電源機器・電源デバイス事業）**
アミューズメント向けアダプタは引き続き好調に推移、増収も収益貢献は限定的
- **（変成器・電源デバイス事業）**
エアコン用リアクタは、日本・アセアンでの需要増があったが、資源価格の高騰も影響し採算面では厳しい

- 2017年度は5.24GWまで縮小（前年比▲18%）
パネルの過積載が進み、パワコンの出荷は更に低調
- 特に当社シェアが高い低圧連系発電の落ち込みが顕著
- 改正FIT法の影響：
新規申請の大幅減少と再申請手続きの遅れが継続

国内太陽光発電パネル出荷推移(kW)と買取価格(円/kWh)



*過積載: 最大発電量を狙ってパワコンの容量を大きく上回るパネルを設置

出典: 日本太陽光発電協会 (JPEA) 統計資料

アミューズメント向けアダプタ増加も、パワーコンディショナの国内市場停滞と海外拡販の遅延に伴い売上微増にとどまる。
 パワコン関連の減損および在庫の評価減実施により大きな損失計上

単位：百万円

	2017年3月期 累計	2018年3月期 累計	増減
売上高	26,156	26,417	261
営業利益	▲3,333	▲4,361	▲1,027
経常利益	▲3,415	▲4,432	▲1,016
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲5,782	▲8,830	▲3,048

連結セグメント別業績概要

単位：百万円

	2017年3月期累計		2018年3月期累計		前年度比増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
インバータ (パワーコンディショナ)	14,317		10,690		▲3,626	
		▲3,420		▲4,228		▲808
電源ユニット	2,447		5,984		3,536	
変成器	9,391	321	9,743	24	351	▲296
調整額	-	▲234	-	▲157	-	76
連結計	26,156	▲3,333	26,417	▲4,361	261	▲1,027

*セグメント利益については インバータと電源ユニットを電源機器として開示

電源機器事業

前年度比 ▲0.5%

- 国内太陽光市況は前年度に引き続き大きく減退
- 海外パワコン拡販は著に着いたばかりで力不足
- アミューズメント機器向けADPは引き続き好調に推移

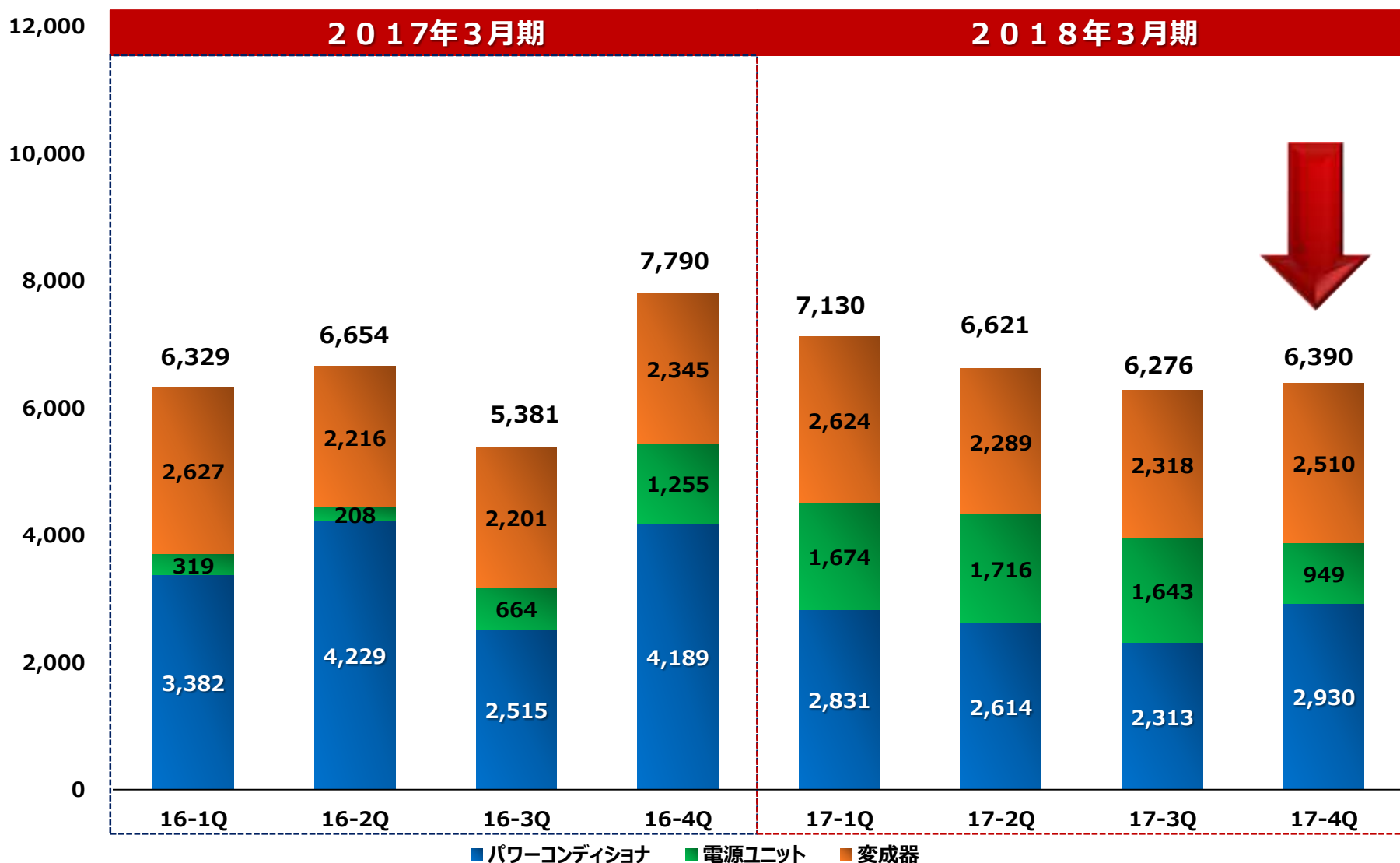
変成器事業

前年度比 +3.7%

- インバータエアコンはアジア・中国での需要が拡大
- 電源用スイッチングトランス白物・事務機向けアセアンの需要堅調に推移

連結セグメント別売上高四半期推移

単位：百万円

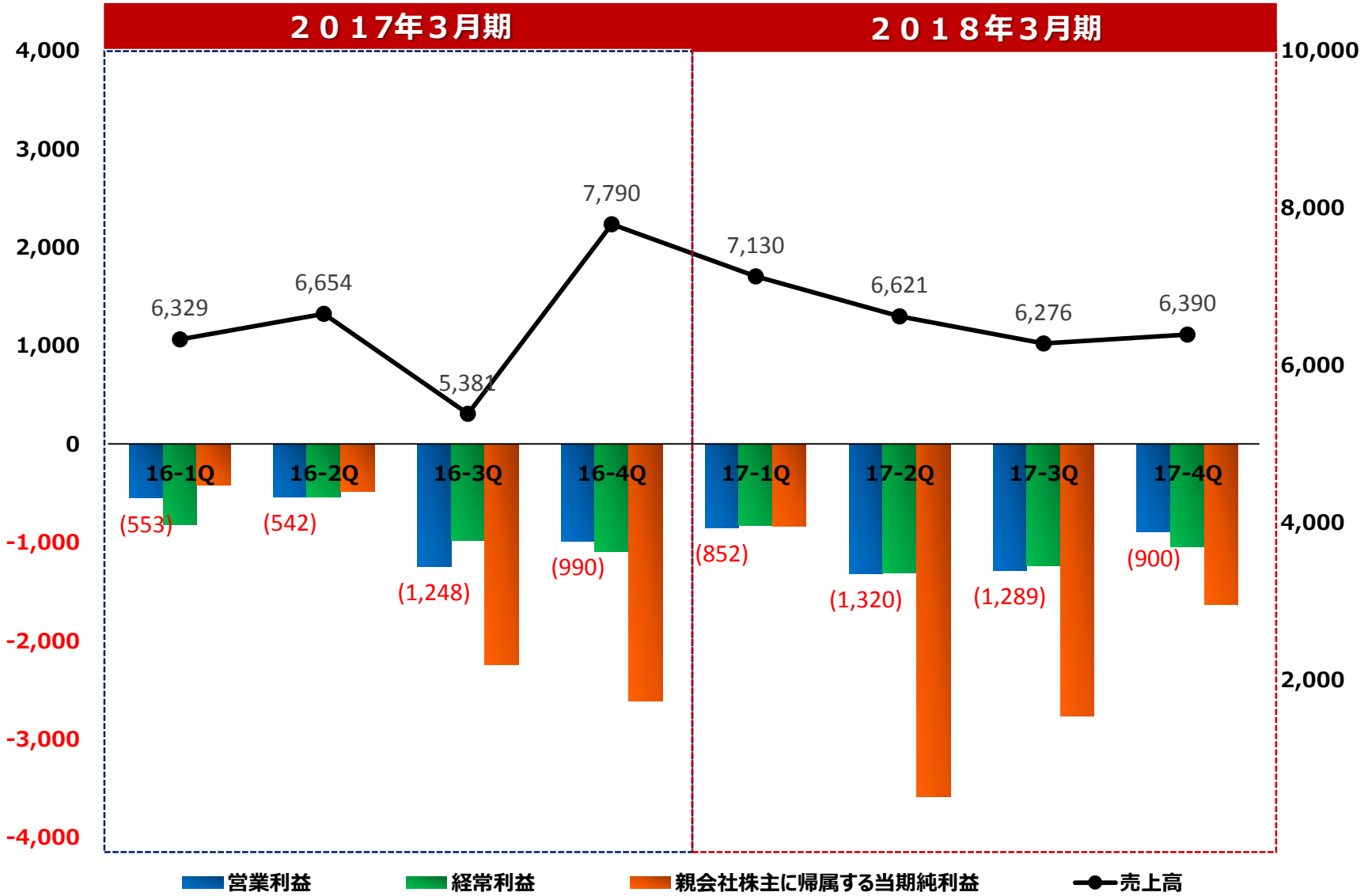


連結業績四半期推移

単位：百万円

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益（棒グラフ）

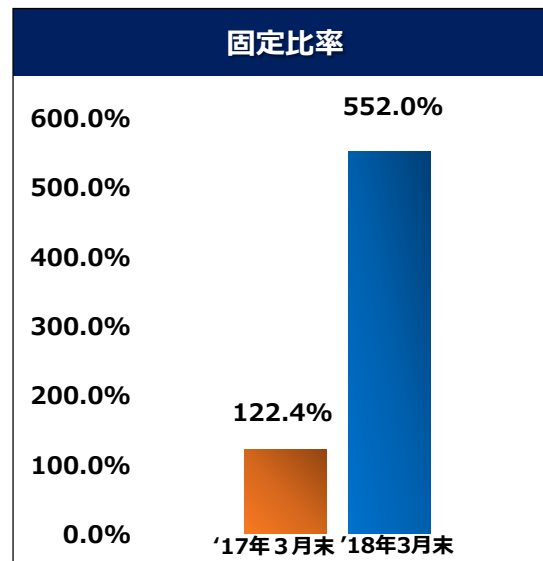
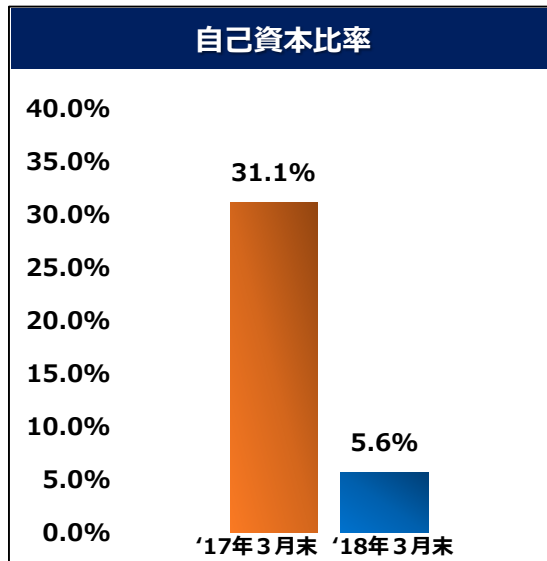
売上高（折線グラフ）



連結貸借対照表概要

単位：百万円

	2017年3月末	2018年3月末		2017年3月末	2018年3月末
現預金	4,365	2,623	仕入債務	4,434	3,735
売上債権	5,268	4,496	短期有利子負債	7,065	8,943
棚卸資産	9,064	7,482	その他（流動）	3,177	2,337
その他（流動）	1,024	1,044	長期有利子負債	2,309	1,791
固定資産合計	12,121	7,051	その他（固定）	4,951	4,613
繰延資産	0	0	純資産	9,905	1,277
資産計	31,844	22,698	負債・純資産計	31,844	22,698



連結キャッシュ・フロー計算書概要

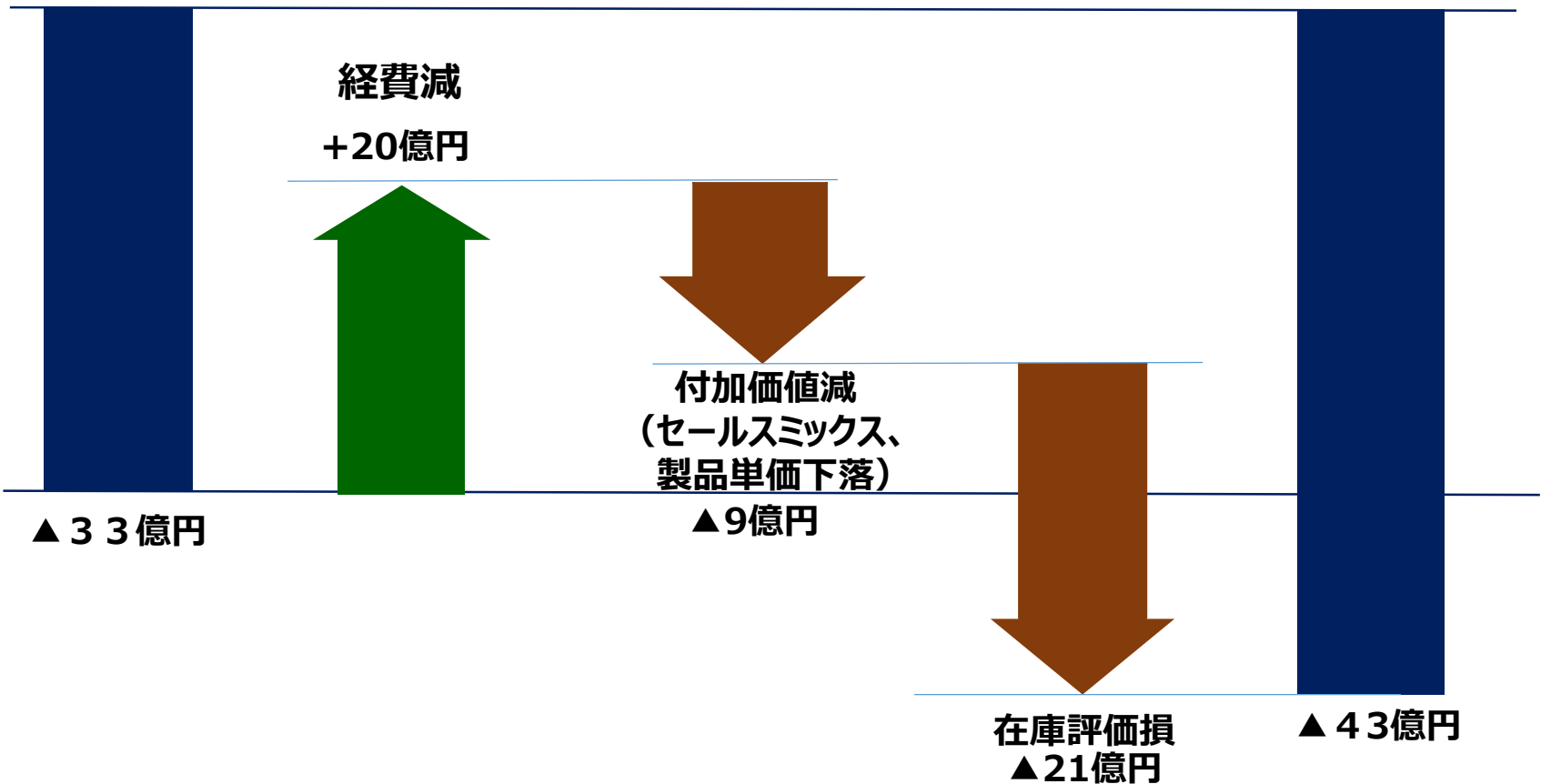
単位：百万円

	2017年 3月期	2018年 3月期	増減
営業活動によるCF	▲2,985	▲1,753	1,231
投資活動によるCF	▲2,635	▲1,260	1,374
フリー・キャッシュ・フロー	▲5,621	▲3,014	2,606
財務活動によるCF	4,313	1,321	▲2,991
現預金に係る換算差額	▲64	▲48	16
現預金増減額	▲1,372	▲1,741	▲369
現預金期首残高	5,737	4,365	▲1,372
現預金期末残高	4,365	2,623	▲1,741

連結営業利益増減分析（対前年度比較）

2016年度

2017年度



今後の取り組みと見通し

単位：百万円

	2018年 3月期	2019年3月期 上期
売上高	26,417	13,000
営業利益	▲4,361	▲600
営業利益率	—	—
経常利益	▲4,432	▲700
親会社株主に帰属する当期純利益	▲8,830	▲600
配当	年間計 0円	中間 0円

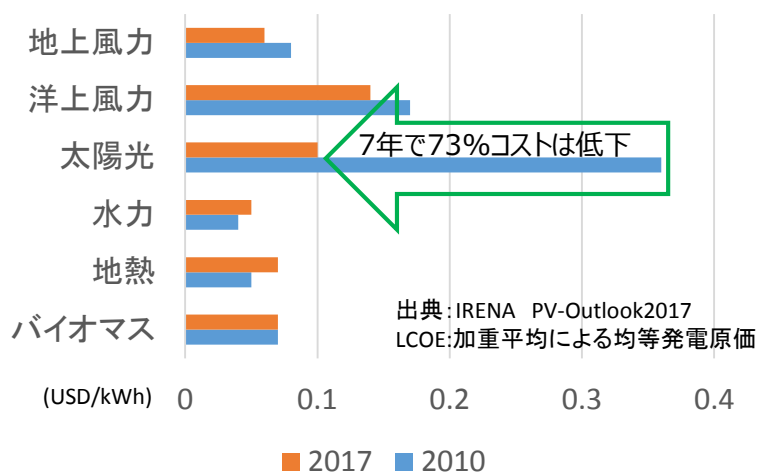
注) 予想の前提となる為替レートは1ドル110円

下期に関しては、現在のところ未定

今期業績の予想

- ・ 売上高、営業利益
- アミューズメント用電源およびトランス事業は引き続き堅調に推移の見通し
- パワーコンディショナの国内市場では市場収縮の中、コスト低下の圧力が拡大 OEM先のシェア拡大に注力し増収を目指す
- 海外（特に米国）の蓄電システムの拡販は本丸のカリフォルニア州での本格販売を開始（補助金拡大）
- 固定費削減による損益分岐点売上が減少し下期から増収による黒字化を計画

発電コスト(LCOE)の推移



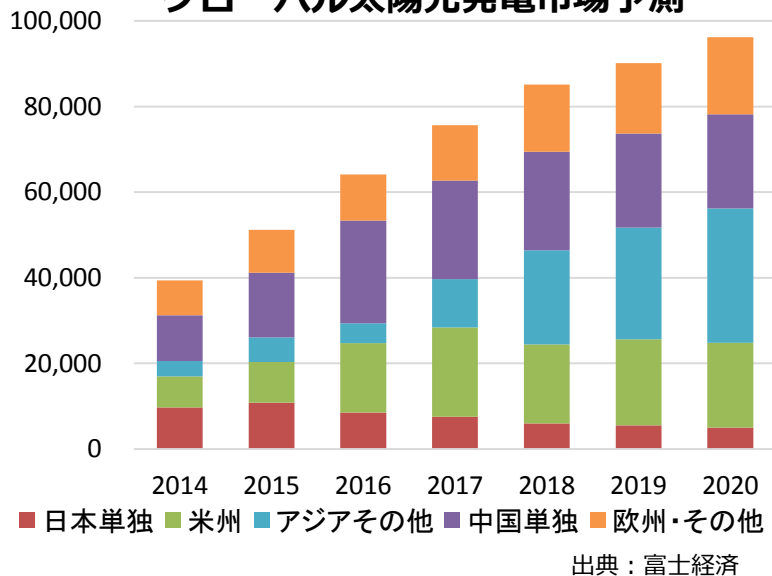
グローバルには太陽光の発電コストは既に**10セント/kWh**以下
脱炭素社会を達成できる**主力電源**として今後も大きく拡大

国内は政策 (FIT) による買電市場から自家消費へ移行

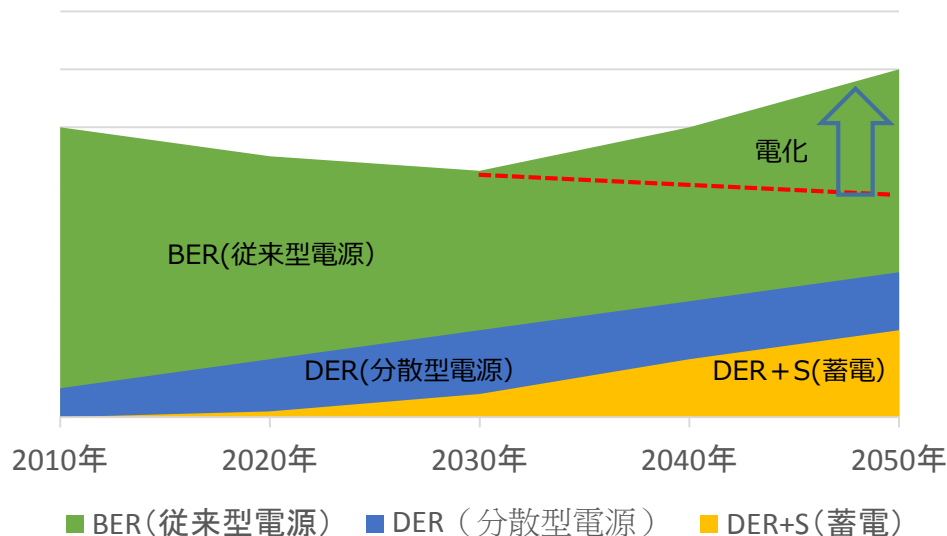
人口減少・省エネの推進で電力需要は低下傾向も、2030年以降はEV化など電化が進み総需要は増大する
電力供給は一極集中大規模発電 (BER)から再生可能エネルギーを中心とする**分散型電源 (DER)** または、**蓄電**技術を取り込んだシステムへシフト





パソコンはスマート化された重要な機器へ

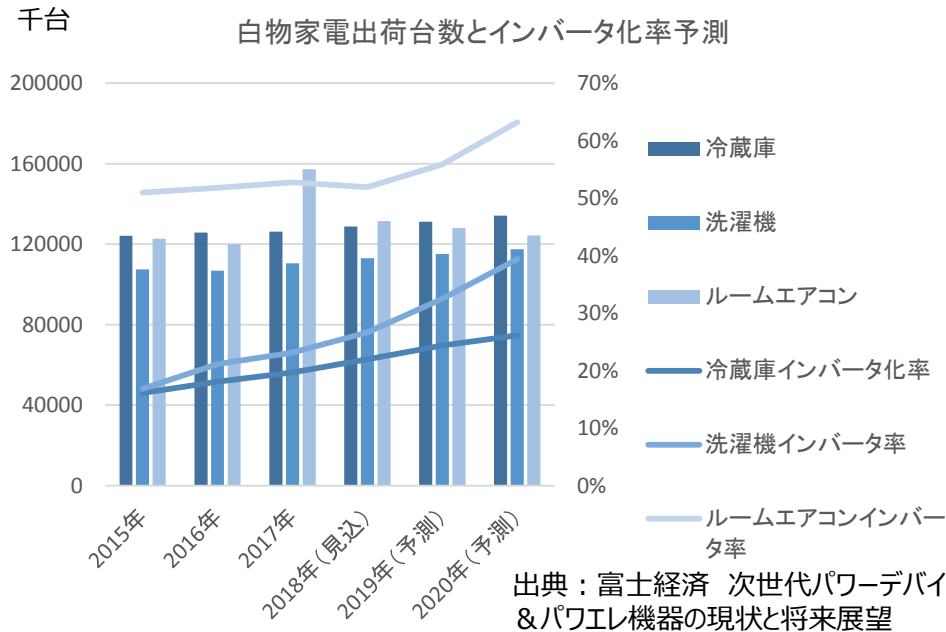
グローバル太陽光発電市場予測



国内電力供給の変化トレンド



発電規模	ニーズ	重点製品	戦略の進捗
<p>小</p> <p>↓</p> <p>大</p>	<p>住宅用</p> <p>ポストFIT（自家消費）は蓄電による電気の有効活用 2009年から始まった余剰買取設備の更新需要が2019年から始まる</p>	 <p>蓄電ハイブリッドシステム（EIBS）の拡販推進</p> <p>一台のパワコンで太陽光と蓄電を制御、無駄の少ない蓄エネを実現</p>	<p>北米では、ハワイ・カリフォルニア・プエルトリコで販売開始。 国内ではOEMで供給先が拡大中</p>
	<p>50kW未満（低圧連系）</p> <p>改正FITの影響で大きく停滞 今後は過積載対応などコストパフォーマンスが重要</p>	 <p>単相・三相9.9kWパワコン</p> <p>シェアの拡大を目指す</p>	<p>マルチMPPT制御の特長を活かしながら同時に低価格を実現</p>
	<p>50kW～2MW（高圧連系）</p> <p>中容量市場は分散型が主力 今後はルーフトップ市場が拡大 ワット当たりの価格を抑えつつ発電量を上げることが課題</p>	 <p>三相25kW/33kWパワコン</p> <p>マルチMPPT制御で高い実発電量を実現</p>	<p>外部からの出力制御に対応（スマートインバータ）</p>
	<p>2MW以上（特高連系）</p> <p>グローバルの主戦場 ワット単価は10セントから更に低減</p>	 <p>三相50kW/60kWパワコン</p> <p>2018年度新ラインアップ</p>	<p>当社初の一括入力方式DC1,500V入力対応で配線コストの大幅低減が可能</p>



【堅調な需要環境】

白門家電など既存顧客の緩やかな生産拡大
省エネの推進によるインバータ率の上昇
自動車の電動化・ロボット・FA機器需要の急進

【当社優位性】

80年近い変成器製造、グローバルな供給体制
電源回路を理解したカスタム提案力
国内外100名規模の技術・開発体制

民生機器用

低周波トランス
(LFT)



エアコン用リアクタ

高周波トランス
(HFT)



プリンタ用
スイッチングトランス

カスタム電源
(PS)



ゲーム機用ACアダプタ

産業機器用



汎用インバータ用
リアクトル



充電器用トランス



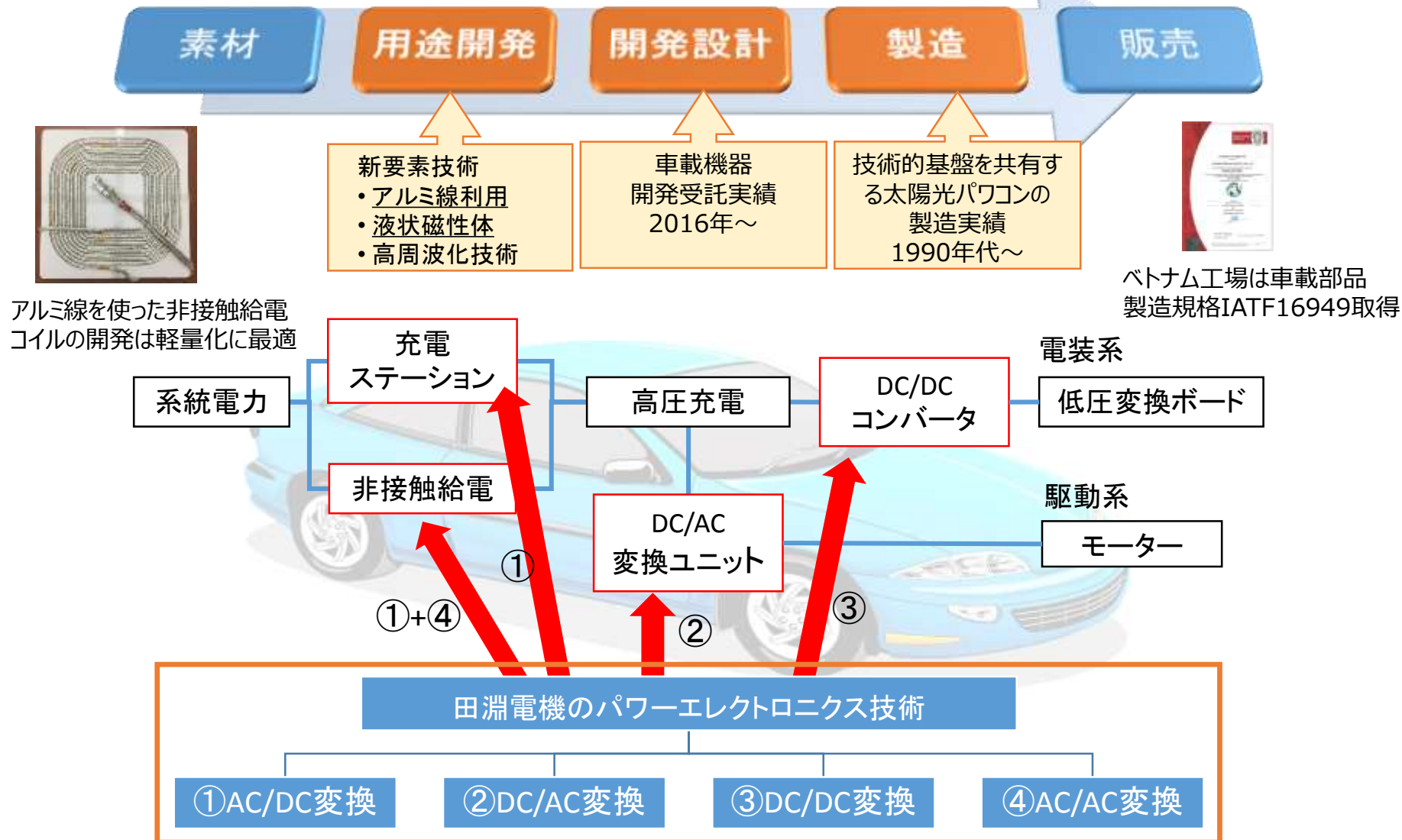
内視鏡用電源

特殊用途用



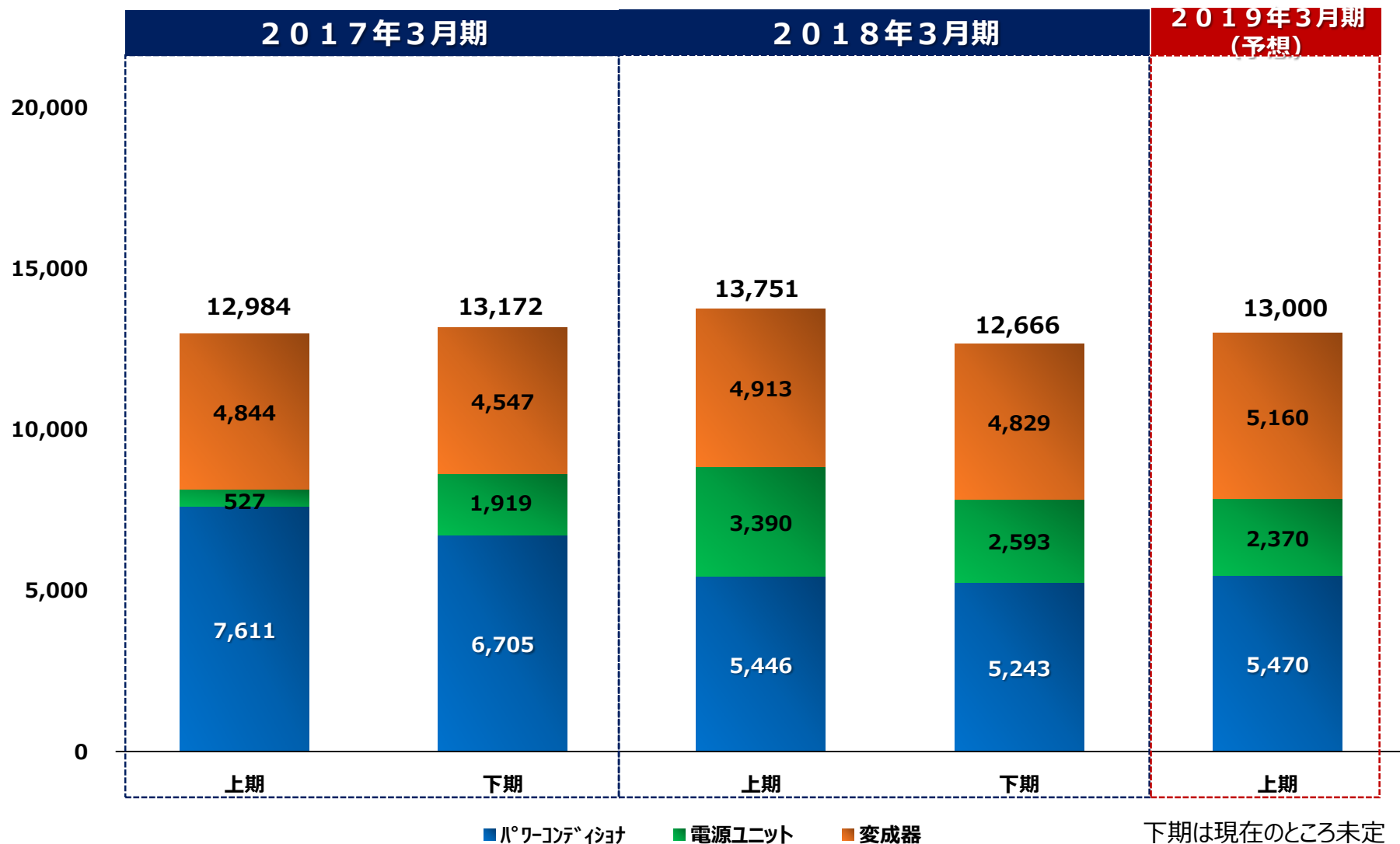
ガン治療用
電磁石(大型製品)

変成器・電源・パワコンで培った技術を車載ビジネスへ転換



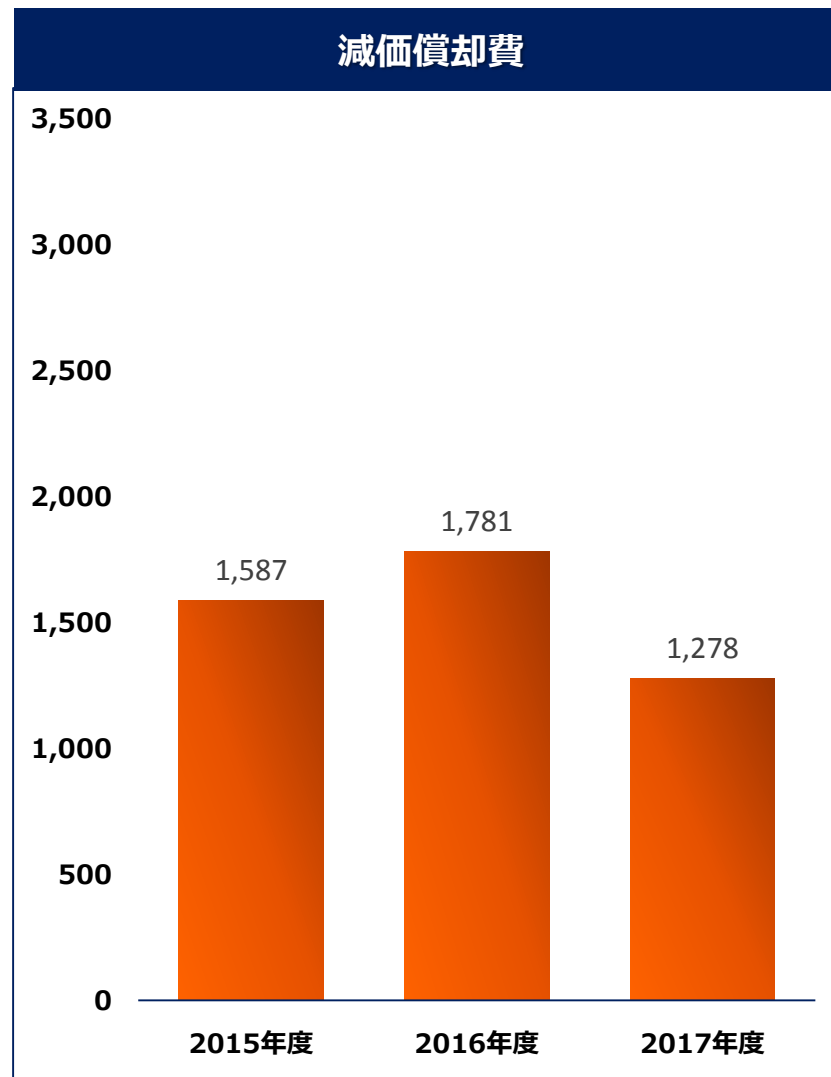
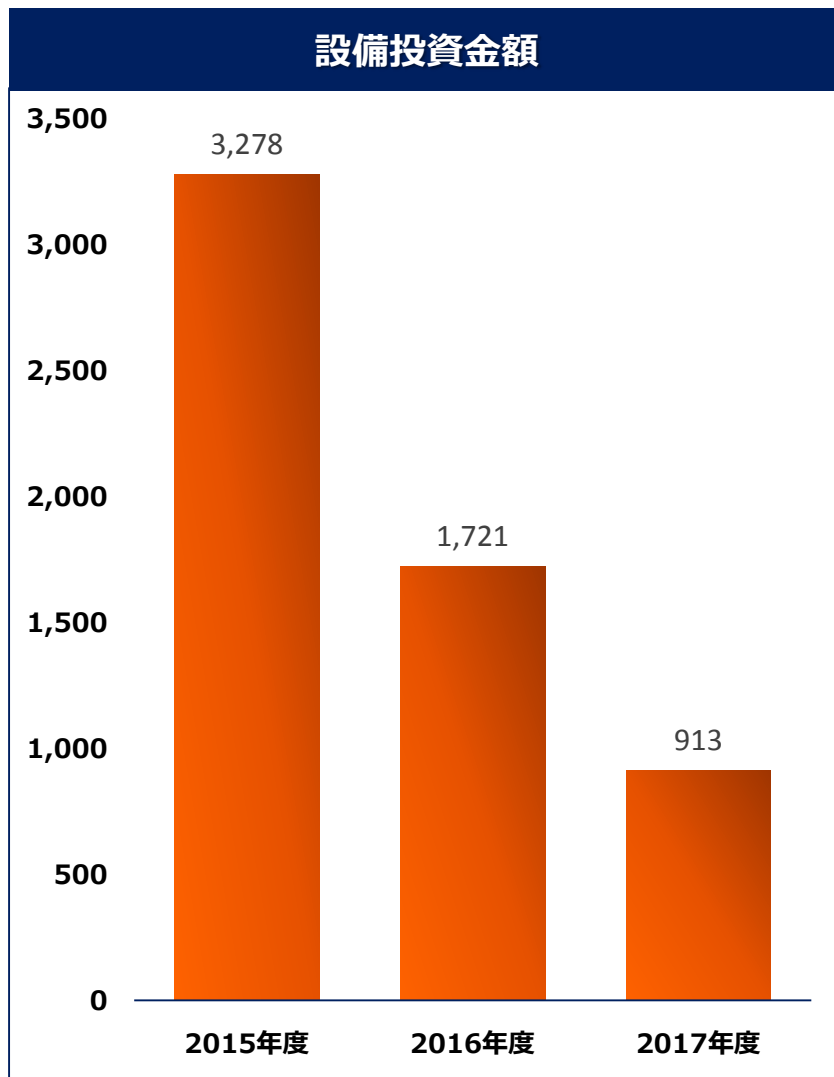
<予想> 連結セグメント別売上高推移

単位：百万円



<予想> 連結設備投資金額・減価償却費

単位：百万円



TABUCHI ELECTRIC

当資料に記載されている、当社又はグループに関する見通し、方針、戦略等は、現時点での入手可能な情報に基づき、合理的と判断した前提のもと予測したものです。実際の業績は今後起こりうる様々な要因によって異なることがあるということをご理解ください。